

## マレーシア贈呈式報告（2015年3月12～20日 担当：森田祐和）



### はじめに

当会から送り出した車いすは、マレーシアにおいて中国系とマレー系のグループに分配する形を取りました。多少の手違いで150台プラス4台の154台ですが、今回は中国系グループに40台、マレー系に114台お届けをいたしました。

当地ではジャパンフェスティバルが行われた際に、車椅子の贈呈式も執り行い、私も稚拙ながらスピーチをして、当NPOからの気持ちと日本のお母さんたちからのメッセージを

学生たちが壇上からお伝えをいたしました。

### ジャパンフェスティバルと車椅子贈呈式

今回のお祭りはパームヤシが群生する人里離れた場所でした。突貫工事で仕上げた鉄骨だけの建物の中でしたが、400名くらいは参加していたようです。日本大使館からは児玉公使と一等、二等書記官も参列し、厳かというより賑やかな楽しい雰囲気でした。

当会と相模女子大の学生と小泉准教授が参加をして、日本からのメッセージ、さらには日本の父兄からの気持ちをお届けいたしました。日本らしさを演出した浴衣姿は大変好評で、私以外はヒロインでした。ついでに始まった相模原音頭は、どこの田舎でもあるのんびりしたリズムと簡単な振り付けは、私でもすぐ対応できました。意外なことですが、踊っていると楽しくなってくるから不思議です。

### ALEPS サイド会長の運営工場見学



サイド氏が立ち上げた車椅子工場には、今迄に送付した車椅子の一部が収納されており、ご要望があれば直接手渡しをしている現状です。その理由として、当会から送付した車椅子には、陸揚げしてからも30万円前後要するため、その費用の一部を父兄に負担をしていただくためです。ただし、貧困家庭の父兄からは一切お金を取らず、この工場までのタク

シー代金も負担するケースがあるとのことでした。

ただ、現在は毎日問い合わせがあり、その都度立ち会いをしながら子ども達に渡しており、

行政及び政府の支援もなく、また民間からの資金援助もない中で配布し続けることは、苦しいことかもしれないと想像いたしました。

座位保持椅子について仕上げることができるのか水を向けてみると、熱帯の木製では劣化が早く座位の保持より木製の耐久の方に問題があり、彼はアルミ合金製の室内椅子とバスチェアに挑戦していく方向です。特に暑い国ですから、バスチェア開発は要望が多いかもしれません。車椅子以上に低床のお風呂用椅子は喜ばれると思いました。もちろん、車椅子は仕上げることはできるとはいえ、月産4台では利益を得る段階ではないようです。

将来にわたり、工場はジャパンフェスティバルを行ったパームヤシ畑の敷地に移転することを予定しており、本格稼働することでしょう。彼は車椅子の製造で生きていく覚悟をしており、なお細部にわたり師匠である西野公雄さんに質問、疑問があるようです。

装具については、やはり特殊なボディまで含む長下肢タイプは、該当者を見つけることができず山積み状態でした。しかし汎用型の短下肢装具は需要があるそうです。

#### 日本語学院とリハビリ施設訪問

学校の訪問では、生徒との交流時間がほとんどない中、学生たちが当 NPO と取り組んでいる活動をご紹介します。その後、日本語の授業風景の見学をいたしました。当たり前ですが、日本に行きたい、日本に対する関心は想像以上でした。

リハビリ施設にも訪問しました。そこでの訓練状況は、最新式の米国方式を導入した私が見ても始めて見る光景でした。ここは有料であり、富裕層しか来院できないところで一般的な場所ではないと感じました。リハビリに関しては、あまねく子ども達が受診できなければ意味がないですし、所得の格差がでるようでは成功事例ではありません。お金がなくても、誰でもリハビリを受けられるようにするべきです。またそうしなければいけません。 森田祐和

